

日本語研修コース(25期・26期)
(年次報告(平成24年度後期・25年度前期) I
日本語・日本事情教育)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00007692

I 日本語・日本事情教育

日本語研修コース25期・26期

熊井 浩子

1. コースの概要

24年度後期（第25期）は、正規生としては教員研修留学生3名、協定校からの交換留学生1名が非正規生として日本語1を受講した。このうち正規生である1名は日本語既習者であるため、研修コースに籍を置きつつ、実際の科目は日本語教育プログラムの中級レベルを受講した。非正規生の1名も、国で2年程度日本語を勉強した既習者であったが、基礎力に不安があったため、復習もかねてゼロスタートクラスに参加した。タイプや得意分野の異なる3名であったが、既習者である協定校学生が他の2名をひっぱっていく形で授業が進められ、一定の成果を上げることができた。25年前期（第26期）は、ドクターコース進学予定の工学研究科（浜松キャンパス）の研究留学生在が半年間静岡キャンパスで正規生として受講した。受講生が1名ということで、その学生にターゲットを絞る形でメインテキストとして初めて『はかせ』1・2を使用し、語彙や文型についても取捨選択するとともに、必要な文型を『みんなの日本語』で補う形で授業を行った。日本語・日本文化にも強い関心を持つ意欲的な学生であり、基本的な日本語のコミュニケーション能力を身に付けることができた。

その結果、24期・25期ともに、全受講者が80%以上の出席及び所定の定期試験を受験するという修了要件を満たしたため、正規生には修了証、非正規生には受講証が授与された。

2. 授業期間

第25期 平成24年10月9日～平成25年2月8日 15週

第26期 平成25年4月10日～平成25年7月29日 15週

3. 第23期

3. 1. クラス編成

クラス	受講者	国	所属・在籍身分
日本語教育プログラム	1	韓国	教育学研究科・研究生（教員研修留学生）
日本語1	2	インドネシア	教育学研究科・研究生（教員研修留学生）
	3	インドネシア	教育学研究科・研究生（教員研修留学生）
	4	アメリカ*	人文学部・特別聴講学生（協定校交換留学生）

*：非正規生

3. 2. 時間割

日本語1

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2時限 8:40～10:10	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語
3・4時限 10:20～11:50	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語
5・6時限 12:45～14:15	漢字	作文	聴解		日本の生活
7・8時限 14:25～15:55			会話		

3. 3. 授業内容

日本語 I (入門)

目標：日本語の基礎的な構造・表記を学び、日常生活における基本的なコミュニケーション力を身に付ける。

基礎日本語 10コマ/週

目的：日本語の基本的な構造・表記を理解し、日常的なコミュニケーションの基礎を身につける。

内容：初級文型の総合的なコミュニケーション練習

使用教材：『みんなの日本語 本冊』初級 I・II (スリーエーネットワーク)

『みんなの日本語 翻訳・文法解説 英語版』初級 I・II (同上)

『日本語かな入門 英語版』(国際交流基金)

会話 1コマ/週

目的：既習項目を使って、日常生活のさまざまな場面で、いろいろな活動・コミュニケーションができるようになる。その活動をとおして、異文化の考え方・習慣を学ぶ。

内容：基礎日本語の既習事項の運用練習。日本語ネイティブスピーカーとの会話。校外学習の計画作り。

使用教材：適宜

聴解 1コマ/週

目的：日本語の音声から必要な情報を得られるようになる。

日常生活において基本的なコミュニケーションができるようになる。

内 容：CD・テープ・ビデオなどを使った聞き取り練習及び発音練習。

使用教材：『聴解タスク25』初級I・II（スリーエーネットワーク）

『楽しく聞こう』（文化外国語専門学校）等適宜

作文 1コマ／週

目 的：既習の語彙や文型を文章の中で適切に使えるようにする。さまざまなテーマで作文を書くことによって、語彙・表現を増やす。

内 容：全体的な構成を意識しながら、日常的なトピックについて作文を書く・文集作成

使用教材：『やさしい作文』（スリーエーネットワーク）

漢字 1コマ／週

目 的：日常生活・勉学生活に必要な基本的漢字の読み書きを身につける。

日本語研修コース修了後も自分で学習を継続できるような漢字学習法を学ぶ。

内 容：初級前半の漢字の読み・書き、読解

使用教材：『みんなの日本語 漢字 英語版』Vol.1（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語 初級で読めるトピック25』（スリーエーネットワーク）

日本の生活 1コマ／週

目 的：主に新規来日の学生を対象とする。スムーズに日本の生活に適応するため、基礎的な日本文化・社会に対する理解を深める。

内 容：日本の文化・習慣など、日常生活で最低限必要なこと。見学などを随時行なう。

使用教材：適宜

4. 第26期

4. 1. クラス編成

クラス	受講者	国	所属・在籍身分
日本語1	1	アルジェリア	工学研究科・研究生（研究留学生）

4. 2. 時間割

日本語1

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2時限 8:40～10:10	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語
3・4時限 10:20～11:50	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語	基礎日本語
5・6時限 12:45～14:15	漢字	作文	聴解	日本の生活	会話
7・8時限 14:25～15:55					

4. 3. 授業内容

日本語 I (入門)

目標：日本語の基礎的な構造・表記を学び、日常生活における基本的なコミュニケーション力を身に付ける。

基礎日本語 10コマ/週

目的：日本語の基本的な構造・表記を理解し、日常的なコミュニケーションの基礎を身につける。

内容：初級文型の総合的なコミュニケーション練習

使用教材：『はかせ』1・2（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語 本冊』初級 I・II（スリーエーネットワーク）(抜粋)

『みんなの日本語 翻訳・文法解説 英語版』初級 I・II（同上）(抜粋)

『日本語かな入門 英語版』（国際交流基金）

会話 1コマ/週

目的：既習項目を使って、日常生活のさまざまな場面で、いろいろな活動・コミュニケーションができるようになる。その活動をとおして、異文化の考え方・習慣を学ぶ。

内容：基礎日本語の既習事項の運用練習。日本語ネイティブスピーカーへのインタビュー。校外学習の計画作り。

使用教材：適宜

聴解 1コマ/週

目的：日本語の音声から必要な情報を得られるようになる。

日常生活において基本的なコミュニケーションができる

内 容：テープ・ビデオ・会話などの聞き取り

使用教材：『みんなの日本語 本冊』初級Ⅰ・Ⅱ（スリーエーネットワーク）

テープ・ビデオなど適宜

作文 1コマ／週

目 的：既習の語彙や文型を文章の中で適切に使えるようにする。さまざまなテーマで作文を書くことによって、語彙・表現を増やす。

内 容：全体的な構成を意識しながら、日常的なトピックについて作文を書く・文集作成

使用教材：『やさしい作文』（スリーエーネットワーク）

漢字 1コマ／週

目 的：日常生活・勉学生活に必要な基本的漢字の読み書きを身につける。

日本語研修コース修了後も自分で学習を継続できるような漢字学習法を学ぶ。

内 容：初級前半の漢字の読み・書き、読解

使用教材：『みんなの日本語 漢字 英語版』Vol.1（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語 初級で読めるトピック25』（スリーエーネットワーク）

日本の生活 1コマ／週

目 的：主に新規来日の学生を対象とする。スムーズに日本の生活に適応するため、基礎的な日本文化・社会に対する理解を深める。

内 容：日本の文化・習慣など、日常生活で最低限必要なこと。見学などを随時行なう。

使用教材：適宜

平成24年度日本語予備コース（第4期）

袴田 麻里

1. コースの趣旨と目標

14年度後期より開講してきた学部入学前予備教育プログラム（日韓理工系学部留学生コース）を、21年から研究生向けに変更し後期にのみ開講している。

本コースは、修士課程進学を前提に本学で研究生として在籍する留学生に対して、大学院受験に足る、また、修士生として勉学できる日本語能力（日本語能力試験2級以上）を身に付けさせることを目標としている。中級から上級レベルの語彙、文法、漢字能力の補強、発話能力、作文能力の育成を行った。